

総合大雄会病院
卒後歯科臨床研修プログラム
2027

社会医療法人大雄会
総合大雄会病院

1. 名称

総合大雄会病院卒後歯科臨床研修プログラム

2. 研修プログラムの特色

歯科医学の高度化、複雑化に伴い、卒後教育のみでは日常臨床上不完全となりやすい。基礎的な歯科診療技術を確実に身につけ、プライマリーケアに充分に対応しうる臨床医を養成することが必要不可欠である。また、近年の高齢化に伴い慢性疾患の有病者が激増している。歯科医療の現場において、医科の各診療科と連携し、適切な口腔疾患の管理が必要である。当科においては、医科と連携し、基礎疾患を把握し有病者歯科疾患、口腔外科疾患に対して知識及び実践能力を身につけることが可能である。

3. 臨床研修の目標の概要（別紙参照）

患者中心の全人的医療を理解し、すべての歯科医師に求められる基本的な診断能力（態度、技能及び知識）を身に付け、生涯研修の第一歩とする。

4. プログラム責任者の氏名

歯科医師臨床研修教育責任者：部長 牧原 弘幸

5. 臨床研修施設および研修期間

【臨床研修施設】総合大雄会病院 愛知県一宮市桜一丁目9番9号

病床356床、うち歯科口腔外科6床

【標榜科】

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、内分泌・糖尿病内科、血液内科、脳神経内科、腎臓内科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、小児科、耳鼻いんこう科、眼科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、精神科、心療内科、救急科（救命救急科）、麻酔科、放射線科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科

【研修分野】

歯科、歯科口腔外科

【研修期間】

2027年4月1日から1年間

6. 研修歯科医の指導体制

- ・指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医による屋根瓦方式を基本とする。
- ・臨床研修委員会を発足し、年3回（研修歯科医師選考時期、修了認定、開始直前など）定期会合を持ち、臨床研修運営方針の検討および研修歯科医の成績評価を行う。歯科医師臨床研修の実施に支障をきたした場合は随時、臨時臨床研修委員会を招集し対応策を検討する。研修プログラムの内容に調整、変更を必要とする場合は、病院長、社会医療法人大雄会理事長の了解、指示の下に調整を図る。

7. 指導歯科医

- ・歯科医師：部長 牧原 弘幸
- ・歯科医師：伊藤 発明
- ・歯科医師：桃北 萌子

8. 研修歯科医の評価

- ・プログラム責任者は、別紙の「歯科医師臨床研修評価表」に基づき評価を行う。
- ・多職種評価者（歯科衛生士、歯科技工士、看護師、受付事務のいずれか）は、別紙の「歯科研修医多職種評価表」に基づき評価を行う。

9. 修了判定を行う基準

- ・ポートフォリオ内の項目がすべて記載されていること
- ・評価記録の項目が全てC評価以上であること
- ・必要症例50症例以上達成すること
- ・多職種評価を加味して総合評価する

10. 研修歯科医の募集定員

1名

11. 募集及び採用方法

小論文及び面接・面談を通じ本人の適正や能力を総合的に判断する。

12. 研修歯科医の処遇に関する事項

- ・身分：常勤
- ・勤務：週40時間のシフト制
- ・平日／08：30～17：15（休憩45分）
- ・土曜／08：30～12：30
- ・研修手当：月額約355,000円（他諸手当有）賞与約800,000円 年収約5,060,000円
- ・休暇：有給休暇、年末年始、産前産後、育児、介護休暇
- ・当直：無し
- ・宿舍：有料 15,000円
- ・施設内の室：1室
- ・社会保険：健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険
- ・健康管理：健康診断（年1回）、予防接種（インフルエンザ、B型肝炎など）
- ・その他：院内保育室あり、福利厚生あり、ユニフォーム貸与
- ・歯科医師賠償責任保険：個人で加入
- ・外部の研修活動に関すること：学会、研修会への参加可
- ・勤務時間以外においても緊急疾患対応などの診療に参加することを認める
- ・各種ハラスメントの相談：ハラスメント委員会あり
- ・注意：臨床研修中のアルバイトは禁止する

11. 卒業後の進路

研修終了後、本人が希望する場合はさらに1～3年間の専門研修が可能である。また、引き続き大学病院での研修を希望する者は関連大学病院へ紹介する。

12. 歯科研修管理委員会構成

診療科	氏名	病院名	役職	委員会役職
麻酔科	高田 基志	総合大雄会病院	院長	研修管理委員会委員長
口腔外科	牧原 弘幸	総合大雄会病院	部長	プログラム責任者
外部委員	葛谷 幹雄	くずや歯科	院長	外部委員
事務担当者	西村 亮彦	総合大雄会病院	法人本部長	臨床研修管理委員会 事務責任者
事務担当者	玉田 桐子	総合大雄会病院	事務長	

【別添】

歯科医師臨床研修の到達目標

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7. 情報・科学技術を活かす能力

- ① 情報倫理(AI 倫理を含む)及び個人情報を含むデータ保護に関する原則を理解し、実践する。
- ② 健康・医療・介護に関わる情報倫理及びデータ保護に関する原則を理解し、実践する。
- ③ 医療・保健・介護分野での Internet of Things (IoT) 技術や AI 等のデータの適切な活用について理解する。

8. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

9. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

10. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。

- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

C.基本的診療業務 ※別紙有

1.基本的診療能力等

(1)基本的診察・検査・診断・診療計画

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族必要な情報を整理した上で、患者及び家族の意思決定を確認する。

(2)基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
 - a. 歯の硬組織疾患
 - b. 歯髄疾患
 - c. 歯周病
 - d. 口腔外科疾患
 - e. 歯質と歯の欠損
 - f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
- ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
- ⑦ インシデント、ヒヤリ・ハット事例等を経験したら、報告書等を作成するとともに、その発生要因を分析することにより、必要な対策について理解し、実践する。

(3)患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1) 歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ 在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し、参加する。
- ④ 病院における歯科の役割を理解し、病院内の医科との連携を経験する。
- ⑤ がん患者等の周術期や回復期等の入院患者の等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ⑥ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。
- ⑦ 入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。
- ⑧ 地域における病院歯科の役割を理解し、病院歯科と歯科診療所の連携（歯科医療機関間の連携）を経験する。

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

	項目	研修内容	症例数
(1)基本的診察・検査・診断・診療計画			
1	患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。	初心患者に対する問診、画像検査、生体検査の指示及びカルテ記載、既往歴あれるーれきの記載、治療方針の決定、患者及び家族への説明など	2 症例
2	全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。		2 症例
3	診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。		2 症例
4	病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。		2 症例
5	診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。		2 症例
6	必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族に必要な情報を整理した上で、患者及び家族の意思決定を確認する。		2 症例
(2)基本的臨床技能等			
1	歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。	口腔内の診察、器具の使い方など	2 症例
2	一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。		
	a. 歯の硬組織疾患	う蝕処置	2 症例
	b. 歯髄疾患	抜髄処置	2 症例
	c. 歯周病	歯周病患者のスクレーピングなど	2 症例
	d. 口腔外科疾患	要抜歯歯の抜歯など	2 症例
	e. 歯質と歯の欠損	義歯の修理など	2 症例
	f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下	舌圧の測定、嚥下カンファに参加して多職種連携を経験する。	2 症例
3	基本的な応急処置を実践する。	外傷、感染症等に対する初期対応及び応急処置を経験する。	2 症例
4	歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。	心電図、酸素飽和度、血圧計、呼吸モニターの装着	2 症例
5	診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。	適切な診療録の記載、処方せんの発行、歯科技工指示書の作成実務を経験する。	2 症例
6	医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。	院内感染対策、患者誤認防止、および医療安全管理マニュアルに基づく事故予防策の徹底を実践する。	2 症例
7	インシデント、ヒヤリ・ハット事例等を経験したら、報告書等を作成するとともに、その発生要因を分析することにより必要な対策について理解し実践する。	インシデント報告制度を理解し、実際の事例検討やカンファレンスを通じて再発防止策を学ぶ。	2 症例
(3)患者管理			
1	歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。	基礎疾患や抗血栓薬、骨修飾薬等の情報を把握し、歯科治療時のリスクと留意点を説明する。	2 症例
2	患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。	紹介状、診療情報提供書、院内診療録等を活用し、必要に応じて主治医や関係診療科と診療情報を共有し、医科歯科連携を経験する。	2 症例
3	全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。	血圧計、パルスオキシメーター、心電図等を用いて治療中の全身状態を監視し、異常の早期発見に務める	2 症例
4	歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。	歯科診療時に生じる失神、過換気、局所麻酔関連偶発症、出血、アレルギー反応等について理解し、救急対応手順や院内マニュアルに基づく初期対応を経験する。	2 症例
5	入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。	周術期や他科紹介患者に対し、入院時の口腔内評価、術前・術後の専門的口腔ケア、および多職種での情報共有を経験する。	2 症例

	項目	研修内容	症例数
(4)患者の状態に応じた歯科医療の提供			
1	妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の各ライフステージにおける口腔内環境や歯科疾患の特徴を理解し、それぞれに応じた予防管理、保健指導および口腔機能管理を経験する。 ・各ライフステージについて最低1症例以上、合計5症例以上経験する。 	5 症例
2	各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者ならびに有病者等の全身状態に配慮を要する患者に対し、患者背景および全身状態に応じた歯科診療計画の立案と歯科医療を経験する。 ・各ライフステージについて最低1症例以上、合計5症例以上経験する。 	5 症例
2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等			
(1)歯科専門職 間の連携			
1	歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。	う蝕や歯周病の予防処置、周術期や回復期等において、適切な指示とフィードバックを通じた連携を実践する。	2 症例
2	歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。	的確な技工指示書を作成し、技工物設計において歯科技工士と適切な情報共有と意思疎通を行う。	2 症例
3	多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し説明する	スタッフ全体の業務範囲を把握し、院内感染対策やインシデント防止のための安全管理をチームの一員として実践する。	2 症例
(2)多職種連携、地域医療			
1	地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。	地域包括ケアシステムを構成する5つの要素の仕組みと概念を講義等で修得する。	2 症例
2	地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。	オーラルフレイル予防や、口腔機能の維持・向上が全身疾患の管理・誤嚥性肺炎予防に果たす役割と意義を修得する。	2 症例
3	在宅療養患者や介護施設等の入所者に対する介護関係職種が関わる多職種チームについて、チームの目的を理解し参加する。	回復期病棟等からの口腔機能管理のコンサルテーションに対応し、介護・看護スタッフと連携した専門的口腔ケアや機能訓練の計画や介入を経験する。	2 症例
4	病院における歯科の役割を理解し、病院内の医科との連携を経験する。	医科主治医への対診および返書の作成を行い、基礎疾患保有者に対する安全な治療計画の立案を経験する。	2 症例
5	がん患者等の周術期や回復期等の入院患者の等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。	周術期や化学療法・放射線治療を行う入院患者に対し、病棟スタッフと連携して口腔内感染源の除去や粘膜炎対策を実践する。	2 症例
6	歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。	院内のNSTや摂食嚥下チーム等の回診・カンファレンスに参加し、歯科医師としての専門的介入を経験する。	2 症例
7	入院患者の入退院時における多職種支援について理解し、参加する。	入院時の口腔内評価・口腔ケア介入を行い、多職種との情報共有を通じた全身管理、退院後の歯科受診を見据えた口腔衛生指導を経験する。	2 症例
8	地域における病院歯科の役割を理解し、病院歯科と歯科診療所の連携（歯科医療機関間の連携）を経験する。	地域の歯科診療所からの紹介患者の受け入れ、および自院での急性期治療終了後のかかりつけ医への紹介の実務を経験する。	2 症例

	項目	研修内容	症例数
(3)地域保健			
1	地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。	地域包括支援センターや福祉事務所などの役割と、そこに属する関係職種の職務内容を講義等で把握する。	2 症例
2	保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。	母子保健、成人・高齢者歯科健診などの公衆衛生事業の実際を講義等で学ぶ。	2 症例
(4)歯科医療提供に関連する制度の理解			
1	医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し説明する。	歯科医師の法的義務や、管理者の責務などの関連法規を講義等で修得する。	2 症例
2	医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。	健康保険各法の仕組み、療養の給付、および歯科診療報酬点数表に基づく正確なカルテ記載と算定実務を実践する。	2 症例
3	介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。	要介護・要支援認定の仕組みを学び、歯科医師が行う居宅療養管理指導などの介護給付の手続きを講義等で習得する	2 症例